



和光の緑と湧き水だより会報 Verda201号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 代表理事 高橋 048-462-9912

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

一緒に自然に親しみ、ボランティア活動をしましょう 随時会員募集中

2019年12月、2020年1月の主な予定表 (2019年12月発行)

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森 (地域の会に協力して)
19年 12月	14日(土) 環境マップで魅力発見「湧き水の自然と歴史を訪ねるエコハイク」 21日(土) 午後1時~3時 南運動場会議室 竹細工体験	21日(土) 定期保全	1日 富沢湧水保全 9時~10時半 18日(水) 大坂ふれあいの森 9時
20年 1月		18日(土曜) 定期保全	11日 富沢湧水調査・保全 15日 大坂ふれあいの森調査・保全

1. 高尾山の自然を観察し生態系を学び森林浴を楽しむ 11月15日

高尾山は観光と登山、生態系観察など広い分野で今注目されています。今回の研修会は、自然観察をしながら森林浴を楽しみ、自然への理解を深め保全活動へと結びつけることを目的としました。天候に恵まれた一日で、高尾特有の樹木、植物にふれあい、頂上ではひとときわ高くそびえる富士山に改めて感動した一日でした。高尾山をたびたび訪れている青木昌子さんにコースを検討してもらい、行きはケーブル、帰りはリフトを利用し、吊り橋のあるハイキングコースも通り、その後高尾山599ミュージアムに立ち寄り高尾の植生を学びました。歩きながらの観察ですが、特に目についた植物として、シロヨメナ、ヤクシソウ、コウヤボウキ、カンアオイなど、巨大なタコ杉、イヌブナ、常緑樹の多い南面と落葉樹の多い北面などを観察しました。頂上の博物館でムササビの実物大ぬいぐるみがあり、実物の重さがかかり重いのを発見、ブナの葉の食痕など観察できました。参加者それぞれ自然界の様々な感動を持ち帰ることができ、有意義な研修となりました。



高尾山山頂



高尾山口 バスで到着



ムササビ実物大



タコ杉



吊り橋



ヤクシソウ



シロヨメナ

2. 新倉ふれあいの森の竹の利用

和光市公共施設のふれあいの森として竹林があり、年間通して整備し美しい景観とタケノコ掘体験もできる森の説明ページ保全維持を続けています。今回は2つの要望を受け、竹を提供することになりました。

1つ目は、アルコイリスからの依頼で、箱根の兜ホテルの塀に竹を活用して竹柵用の材料として太い竹を枝落しして約10本提供。



新倉ふれあいの森の定期保全活動での様子

2つ目は、第四小校区地区社協立ち上げ前のイベントとして、12月21日に行う冬休み直前「ワクワク遊びのフェスティバル」の3ブースのうちの一か所で「竹細工体験」を担当。新年を迎える花活けや冬の室内での青竹ふみなど丁度季節に役立つモノ作りも出来ます。竹の切り出しは今からの季節が適しているため、新倉の保全整備を兼ねて行いました。

3. 12月14日 開催 中央公民館ロビー集合 10時

環境マップで魅力発見「湧き水の自然と歴史を訪ねるエコハイク」

急速に失われつつある和光の自然、その中で今なお残る白子宿の湧き水、自然の魅力を体感し、次の世代へ引き継ぐ方法を一緒に考えましょう。

中央公民館ロビー——馬頭観音——大坂ふれあいの森——

富沢湧水——白子コミセン



4. 大坂ふれあいの森の樹木剪定、湧水池、湧水路の工事完了 11月5日

大坂ふれあいの森では隣接地が明確になり、そのためふれあいの森の樹木剪定、湧水路の改修、湿地帯の水路堀などが業者により行われ、ようやく終了しました。しかし湧水の流れは相変わらず直線的な流れが残っています。のびのびしていた樹木も枝が落とされて緑が減少しています。とりあえず、大坂ふれあいの森は、今後の水辺づくり、ビオトープが重要になってきています。現在の様子を写真で紹介します。



大坂ふれあいの森東側の様子



湧水がパイプから流れ込む池



湿地に掘った溝に流れる新湧水の道